



行政と市民の関係を創造する
NPO 法人 きょうと介護保険にかかわる会

会報
99 号
2018/4/6

発行人 梶 宏 〒604-8811 京都市中京区壬生賀陽御所町 3-20 賀陽コーポラス 809
TEL・FAX:075-821-0688 E-mail:npokakawarukai@helen.ocn.ne.jp

この一年の取組みを振り返り、新しい年度の活動へ

事務局長 小栗 大直

早いもので平成 29 年度も終わり、今年も年次総会が近づいて参りました。この一年を振り返り、新年度の活動に向けて会員の皆様と共に歩みを進めていきたいと思ひます。

【研修会の充実】

オンブズマン育成の柱と言える研修会、この一年は特にバラエティに富んだ企画を実行してきました。直接的な介護保険制度や介護問題、施設問題等以外にも目を向け、人生 100 年時代の生き方、健康長寿、地域社会とのかかわり方等もテーマとして取り上げました。運営面でもグループ討議を加えた参加型の研修会を今年から開催しました。参加頂いた方からは好評でしたが、一方では参加者の顔ぶれが固定傾向から脱皮できず課題も残しました。

新年度はさらに多くの方が参加下さいます様をお願いします。

【総合事業への継続取組みと他団体との連携強化】

昨年 4 月から始まった総合事業に対して、私たちは 11 月に第 2 回シンポジウム「だまってたらあかん！見えてきた“総合事業”の問題点」を開催しました。今回は運用開始半年余の現場の声を届けようと、実際のサービスを担う地域包括支援センター、訪問介護事業所、そしてヘルパーの立場からそれぞれ問題提起を受け、パネルディスカッションを展開しました。これらの詳細は冊子にまとめられ会員の皆様にお届けを開始しています。

今年は 3 年に一度の制度見直しの年で、既に新聞紙上などでも保険料大幅アップの見直しが出ています。総合事業に対するフォローなど、安心できる介護、納得できる介護保険、信頼できる制度を目指して、引続き他団体と連携して取組む考えです。

【第三者評価の受診件数減少】

私たちの会活動を財政面で支えている「第三者評価事業」の受診は、予算通りの件数ではありませんでしたが前年度比 7 件減の計 15 件でした。受診件数が減った要因は京都府全体の受診件数が相当減少したことによる影響と推測しています。

当会のモットーである「市民目線」を大切にしつつ、受診事業所と共に歩み、信頼される評価機関を目指し、しっかり助言できる「専門性」を高める会独自のフォローアップ研修を継続していきます。

【会報充実とホームページのリニューアル】

会報は毎号 6 ページ建てに増やし、発行部数も 400 部以上に増刷しました。紙面の充実と会員相互の交流を目指して「会員のひろば」を新設し、皆さんの思いや抱負、書評や身の回りのことなど、会員がなんでも自由に発表できる場としました。配布先も京都市全域の地域包括支援センターや三評受診事業所はもちろん、友好団体等にも順次増やしています。

HP は会創設以来初めての全面リニューアルを目指し、新しいソフトで試作中です。間もなく皆様に披露できる段階にきています。以上、会の主だった活動の報告です。

現在の会員数は 80 名です。会員活動の充実と財政基盤の強化など、総会資料で詳しくご報告致します

年に一度の総会です。ぜひ会員全員のご出席をお願い致します。

2018 年度 通常総会

日時：5 月 19 日（土）13:30~16:30

会場：ひと・まち交流館京都 3 階第 5 会議室

総会終了後に懇親会を予定しています。

記念講演：期待される介護留学生

講師：飯森 裕行 氏

社会福祉法人ウエルライフ篠山学園学園長

講演は一般の方も参加いただけます。

（参加費無料）

第 87 回 研 修 会 報 告

健康長寿って何？

日 時：2月17日（土）13：30～16：30

会 場：ひと・まち交流館京都 3階第5会議室

講 師：萩原 三義 氏

（会員、健康長寿のまち・京都市民会議メンバー、はり師
きゅう師、立命館大学生存学研究センター客員研究員）

参加者：19名



今回の研修会は、「健康長寿ってなに？」というテーマで行った。私たちの会員で理事でもある萩原さんを講師に迎え、現在の京都市が行っている健康への取り組みや、実際の健康に役立つ情報や実践を通して、楽しく学ぶ機会となった。萩原さんをよく知る人は、何となく会場の賑やかな雰囲気は想像できると思うが、本当に笑いの渦に包まれながらの研修会となった。

今回、最初に小グループを作り、グループディスカッションの時間と健康長寿について学ぶ時間を折混ぜながら話が進んでいった。先ずは京都市の取り組みから紹介があった。

○「健康長寿のまち・京都」

京都市では、平成 28 年度から市民主体の健康づくり活動を推進し、年齢を重ねても一人ひとりの命が輝き、地域の支え手として活躍できる、活力ある地域社会「健康長寿のまち・京都」を実現するための取り組みを進めている。市民が主体的に楽しみながら健康づくりに取り組めるよう、日々の健康づくりの活動を「健康ポイント」として「見える化」することで達成感を得つつ習慣化を図るとともに、一定の活動成果によってプレゼントが当たる仕組みを作っている（今年度のプレゼント期間は終了）

○「健康長寿のまち・京都市民会議」規約

市民ぐるみで健康づくりを推進する運動組織「健康長寿のまち・京都市民会議」は、市民一人ひとりの主体的、継続的な健康づくりの取組を、すべての市民が参加する運動に広げることにより、京都市民の健康寿命を延伸し、限りなく平均寿命に近づけ、誰もが年齢を重ねても地域の支え手として活躍できる活力ある地域社会「健康長寿のまち・京都」を実現することを目的に、平成 28 年 5 月に発足した。

○「健康寿命」とは「日常生活に制限のない期間の平均」？

健康寿命とは、「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」と定義されているため、平均寿命と健康寿命との差は、日常生活に制限のある「健康ではない期間」を意味する。2013 年において、この差は男性 9.02 年、女性 12.40 年である。2000 年に WHO（世界保健機関）が健康寿命を提唱して以来、寿命を伸ばすだけでなく、いかに健康に生活できる期間を伸ばすかに関心が高まっている。

○グループワークで

テーマ1 あなたは現在、健康上の問題で日常生活に何か影響がありますか？

『ある』とすれば、どのような「日常生活への影響」ですか。

『ない』とすれば、あなたの健康を実現できている要因はどのようなことですか？

テーマ2 あなたは 2030 年に、健康上の問題で日常生活に何か影響が出ていそうですか？

『ある』とすれば、どのような「日常生活への影響」ですか？

『ない』とすれば、あなたの健康を実現できている要因はどのようなことですか？

『あなたの健康』状態以外にあなたの『日常生活への影響』を与えそうな『地域社会』の要因として考えられることは、どのようなことですか？について活発に楽しく話し合いました。

「何時までも健康でいたい」と誰しも願いますが、加齢とともに視覚や聴覚等に機能低下が起こってきます。20 年後、健康上何も問題なしと言い切ることはできるでしょうか。障害のあるなしに関係なく、共に安心していきいきと暮らしやすい社会づくりが必要ではないかと、本日の研修を通し痛切に感じました。

（笠原 あけみ 記）

第88回
研修会
報告

中国における介護の実態

日時：3月27日（火）13：30～16：30
会場：ひと・まち交流館京都 3階第5会議室
講師：趙 林氏
（日中健康福祉協力研究所代表、医師、専門・公衆衛生）
参加者：24名



講師紹介 ◆中国広州市出身、南方医科大学医学科を卒業後、総合病院で消化器内科医として勤務。昭和61年に来日。大阪大学で医学博士課程修了。専攻は公衆衛生と高齢者社会保障制度。神戸学院大学で教鞭を執るほか他大学の講師など。摂津市介護認定審査員。日本の介護保険制度に精通し、中国の高齢者福祉と介護保険制度のあるべき姿を研究されています。日中の架け橋として、日中健康福祉協力研究所を設立し代表として活躍されています。

1、中国における高齢者の実態

中国の人口特性は2015年の調査では、総人口：13億7462万人、平均寿命：男性74.64歳、女性79.43歳である。中国では高齢者は60歳以上とされている。中国と日本の高齢者の比較では、中国は1億4374万人、高齢化率は10.5%、日本3342万人26.7%で、要支援、要介護者数は、中国4063万人、65歳以上の人口割合では19.5%、日本は608万人で18%である。（中国の要支援、要介護者数は、中国の「部分的失態・完全失態」人数を代用している。）要支援高齢者数は、2020年4200万人、2050年9750万人と予測され、一人っ子政策の影響もあり、2050年には欧米諸国より高齢化が進行していることになる。

2、中国大都市の高齢者の介護実態

（2017年度上海市在宅高齢者のアンケート調査結果から）

上海市の65歳以上の人口は、戸籍上の計算によると299万人で高齢化率は20.6%（2016年）。平均寿命は男性80.47歳、女性85.09歳（2015年）である。都市部では、生活の利便性が進み寿命が延びている。農村部より高齢化率は高く独居も多く少子化である。

介護支援を受けている割合は、60～69歳19.9%、70～79歳31.0%、80歳以上61.7%。

主な介護支援者は配偶者60.3%、子供23.2%、その他16.5%。介護を受けたい場所として80歳以上は居宅希望が89.5%と高く、年齢が下がると施設希望者が増える。

3、政府による要支援高齢者への対応

上海市は、2005年に高齢者に対する介護事業のビジョン“9073”を市の計画要綱に位置づけ環境整備に着手した。90%は在宅で健康を基盤とした自立的高齢期生活を目指し、7%は軽度の要介護者、3%は寝たきりや重度の認知症の要介護者として試算し、2012年、寝たきりや重度の認知症の要介護者の入所施設を、全ての区町村政府に対して、2015年までに一定水準以上の高齢者介護施設を最低1ヶ所以上設置すること、約7%の居宅高齢者を支援する、デイサービスセンター、高齢者配食サービス拠点の整備を義務化した。

4、介護保険制度の構築に向けて仕組みの検討が始まる

政府は2016年7月、「十三五計画」（13次5か年国家財政計画（2016年～2020年））において、2020年の実施を目標に「介護保険制度の構築に向けての全国モデルの事業施行の意見」を発表し、上海市や広州市など15都市をモデル事業の実施都市として指定した。

モデル事業の主な骨子は①職域医療保険加入者（会社員）を対象に1～2年試行。②加入対象者や保険料の徴収方法などはモデル事業実施都市で独自に作成。但しサービスの保険給付額は70%位まで。③2020年までに介護保険制度のおおまかな骨組みを完成させるなどである。

モデル事業の中間報告では、

- ①加入対象者は医療保険加入者のみに限定するか？農村戸籍の者まで拡大するか？
- ②加入対象者の年齢は、40歳以上か60歳以上か20歳以上か？
- ③実施範囲は、全国一斉か？都市部先行か？
- ④保険料と給付サービスは、農村部と都市部で統一か？二元化の制度にするか？（中国の戸籍制度は、都市戸籍と農村戸籍の二元制になっている）などの議題が取り上げられた。

5、民間事業者による高齢者介護サービスの現状と行政の監督機能

福祉サービスの現状は高齢化の進行に追いつけず脆弱である。施設を例にとると高齢者人口に占める入所定員数は1.97%、入所者数は1.62%で先進国の5～7%に遠く及ばない。

高齢者施設の運営については、

- ①政府による財源の配分が不均等、または不足している。
（初期費用に於いて税金が投入されている）
- ②介護認定基準や運営規範に関する法整備が欠如している。（行政は監督機能を持っていない）
- ③介護施設が入所者を選別する際、対象者のニーズよりも経営上の利益を優先する傾向がある。
（介護費用が高く設定され富裕層が優先される。支払い能力のない高齢者は門前払いされる）。

民営高齢者介護施設4141カ所（2007年時点）のうち半数近くが登録もしていない。民間事業者の介護事業参入に対する法整備がされていないため、未登録や未届けの施設の行政規制などの違反を罰することが出来ない。

6、介護サービス専門職の深刻な人材不足

- ①給料が安い。
- ②労働条件が厳しく、社会的地位が低い。

③2002年に「養老介護員国家職業基準」、「ソーシャルワーカー」資格認定制度を施行し推進しているが、無資格者を雇用した法人に対して法的取り締まり、罰則がないため、賃金が安い無資格者を雇っている。

7、国における財政支援と課題など

政府の財政支援として、

- ①“煉瓦補助”施設建設補助は、収容定員数に合わせて一時金の財政支援の支給。
- ②“ベッド補助”施設サービス補助は病床数ごとの月額補助。
- ③“人頭補助”入所者数や利用者数に応じてサービス費の直接補助。また一部の地域に於いては、設立初期の運営費や設備などに対して一時金の補助をしている。

設備面の財政支出はあるが、増え続ける高齢者のニーズに対してはまだまだ足りない。ソフト面は全然追いついていない。戸籍制度の二元制がもたらした、農村と都市の介護福祉分野での格差問題なども課題である。

介護保険制度を含め、法的基盤、整備の完成を目指して歩き始めたところである。

日本の介護保険制度の良い点や問題点等を参考に制度の構想をしているという事が印象に残りました。

10分間の休憩後、

中国青島市にある「中華養生文化園」

講師が訪問された時のスライドとお話があった。

中国の伝統である自然を取り入れた養生法を、健康増進のために取り入れた療養施設である。公務員のための施設であったが、現在は一般にも開放されている。

講師から、「定期的に日本の仲間や希望者と中国を訪問したり、話し合いの会を持っています。健康増進のための日中間のグループが出来たらいいなと思っています。」とのことでした。



（竹山 幸江 記）

**第 89 回
研 修 会
案 内**

施設見学会 銭形企画（株）

高齢者・通所介護なごみサービス 和（1階）
障害者・生活介護サービス（2階）

日 時 4月17日（火） 13：30～16：00（予定）
場 所 下京区黒門通五条下ル柿本町（大宮五条の一筋東の通りを南へ）四条大宮
から南へ徒歩 15 分、市バス206号、207号系統大宮五条下車徒歩 3分
集 合 現地集合とします。直接お越しください。参加費 不要

他に子供放課後デイ、ホームヘルプ事業や居宅介護支援事業所、マネジメント事務所も併設。

同一施設内で高齢者と障害者の各サービスがあり、65歳障害者の介護保険への移行もスムーズに行われています。「銭形平次のように京のまちを平和にしたい」という思いで命名されたそうです。

5月総会記念講演

期待される介護留学生

日 時 5月19日（土）14：45～16：30
会 場 ひとまち交流館京都 3階第5会議室
講 師 飯森 裕行 氏（介護福祉士養成校篠山学園 学園長）

今後、予測される介護福祉士の不足は2025年には30万～40万人ともいわれ深刻な問題となっています。兵庫県篠山市で平成29年9月、ベトナムなど海外の留学生も積極的に受け入れる介護福祉士養成校（2年課程、1学年80名）が、前年3月に廃校となった県立高校の跡地を活用して開校されました。西宮市にある社会福祉法人ウエルライフが「篠山学園」を設立された背景や教育目標、留学生受け入れのご苦労や課題などを初代学園長に語っていただきます。

第 90 回 研 修 会 案 内

日 時 6月22日（金）13：30～16：30
場 所 ひと・まち交流館京都 3階第5会議室
内 容 未定



会員のひろば

梶 寿美子さん ♥ 4月14日（土）府民ホールアルティにおいて、「全国邦楽演奏会」に出演します。演奏時間は2時半頃です。日本盲人会連合の中の音楽家協議会の主催ですが、京都で行われるのは多分これが最後です。「梶寿美子と琴アンサンブルプリマルーチェ」は、「月に寄する三章」という曲でヴァイオリンと合わせます。

高雄慕情

会員 冬木美智子



昨年9月、観光旅行で台湾の高雄を訪れることができた。高雄は私の父が産まれて育った故郷なのだが、父の生家があった場所をこの目で確かめて写真を撮ることができた。そのあたりは高雄市でも早くに開発された旧市街で、「哈瑪星(はましん)」と呼ばれてレトロな雰囲気が観光客の人気を集めている。初めて訪れたのに何か懐かしい印象を持ったのは、この町での、幼い頃や少年時代の父の姿を想像したからに違いない。高雄はこの時以来、私自身の心の故郷にもなった。

父は1921年生まれである。台湾は、1895年に日清戦争の結果下関条約によって清朝(当時の中国)から日本に割譲され、1945年第二次世界大戦の結果ポツダム宣言によって中華民国に編入されるまでの50年間日本に統治されていた。父の両親は大阪の商人だったが一旗揚げようとして台湾に渡ったと聞いている。父は高雄で中学、台北で旧制高校を出て、京都の大学で学び、海軍技術科士官として敗戦を迎えた。戦前の台湾で生まれ育った約20万人の日本人は「湾生」と呼ばれるが、彼らのほとんどは敗戦後、中華民国政府の方針によって日本本土に強制送還された。引揚者が持ち出しを許されたのは、一人あたり現金1,000円(当時)とわずかな食糧、リュックサック2つ分の必需品だけだったと聞く。

私は幼い頃から父のことを「パパ」、母のことを「お母ちゃん」と呼んで育ったが、今から思うとパパは中国語の「巴巴」からきたものなのだろう。

また休みの日の昼ご飯はピーフンというのが定番だったが、これも父の注文だったのだろうと今さらに思い出す。また父は「世間体がどうこう」とかいうことは一切言わず、合理主義で正義感の強い人生を歩んできたように思うが、そのことにも外地で育ったことが影響しているのかも知れない。父は過去のことを語ることは少なく、私は父の人生についてほとんど知らないままで今に至っている。しかし先だっでの台湾旅行の土産話、写真をきっかけにポツポツと語る父の思い出話が、今、私にとってはとても興味深い。それは私自身のルーツを知ることでもあるからだ。

台湾旅行の時にガイドから、台湾の「高雄」の地名は、京都の「高雄」が由来だと聞いて驚いた。1920年、旧称「打狗(ターカウ)」と発音が近く、また当時から日本の名所として知られていた「高雄」に改称したとのことだ。それが縁で、最近、台湾と京都の「高雄」の相互交流の取り組みが進められているとも聞く。私にとっては不思議な縁で、二つの「高雄」を身近に感じることが出来るのは嬉しいことだ。

今96歳の父は91歳の母と二人、奈良で、訪問介護の支援を受けながら自立した生活を送っている。PC操作が得意でAmazonで買い物をしたり、ネットで色々調べたりはお手の物である。父が元気なうちに少しでも父の高雄時代の話聞き出し、その話をもとに台湾の高雄を再度ゆっくりと訪ねてみたい。

新入会員紹介(四月入会)

村上 理 さん
梶 理可 さん

報告書を配布しています

だまっていたらあかん!

現場からの声々見えてきた

「新総合事業」の問題点

報告書を配布しています。京都

市への提言も掲載しています。

会員外100円

編集後記

今年も桜が咲きました。私にとっての今年の桜は、

「さまざまの事思い出す桜かな」

芭蕉

この句に出会い、いろいろなことを思い出しています。思い出すことは、これから生きることにもつながっていると思います。

かわる会は19年目を迎えました。19年ってすごいことだと思えます。いろいろな人のいろいろな思いがつながって今があるのでしょうか。

新年度にあたり、これからもよろしく願っています。

(竹山 幸江)